

春ノ九表

まつりて宣下〈せんか〉の御伺を耳〈みみ〉にふれん

事唯今〈たゞいま〉ばかりなり関白〈くわんぱく〉三公〈こう〉を見上

て御まなじりにかゝらん事はけふば

かりなり同僚座〈どうれうざ〉れちにぎしきを

さためつる北面〈ほくめん〉は今ぞかぎりなる仙院〈せんゐん〉の

御あそび南庭〈なんてい〉のさくら池〈いけ〉のほとりの落〈らく〉

葉〈よう〉月のまへのながめにははづれずめさ

れつる事を思ひつゞくるになみだも

とどまらねとも心づよく思ひとりてま